

# りんごだより

草笛学園 2024年 6月号



もう夏のような暑さが続いていますね。そして、梅雨に入っていく徐々に蒸し暑くなっていくと思われまます。体調に気をつけて6月を乗り切りましょう！

## \* 「イヤ」の裏側にあるもの \*

二、三歳児の子どもたちは、おなかが空いているはずなのに、「ごはんだよ」といえば、「イヤ! いらぬ」といいます。大好きな散歩のはずなのに、「イヤ! 行かない」といいます。なんで「イヤ」ばかりいいたいのでしょうか。そして、どうしたらいいのでしょうか。

実は、「イヤ」の裏には、二、三歳の子どもの新しい発達への願いが隠されているのです。二、三歳は、「大きい—小さい」などの比べることばの認識が、獲得されていくときです。それは、小さい自分ではない、大きい自分を求める願いにも発展することでしょう。だから、二歳児クラスの子どもたちをみていると、同じクラスの少し小さい友だちの着替えを手伝ってあげようとしていたり、手を引いてリズムの輪のなかに誘うこともみられます。自分のことを「ひよこぐみじゃない!」などと、強調したくなるのです。そこには、大きい自分になりたい願いと、大きい自分を認めてほしい願いが溢れています。それは「おにいちゃんになりたい」「おねえちゃんになりたい」願いといってもよいでしょう。

「大きい自分になりたい」願いをもっている子どもは、自分より大きい存在として、「ごはん食べなさい」などと指示してくるおとなの姿勢が受け入れられないのでしょう。そして、願い通り大きい自分になれたらいいのですが、まだ自分ではできないことがいっぱいあり、おにいちゃん、おねえちゃんとしては、まだまだ、認めてもらえない存在なのです。「イヤ」は、子どもが小さい自分から大きい自分に生まれかわろうと願っているのに、現実にはそうなれないで葛藤している心のあらわれといってもよいのではないのでしょうか。

この葛藤は、「大きい自分」を実感し、そして他者からもそれが認めもらえるこ

とを積み重ねながら、しだいに乗り越えていくものです。だからこそ、集団のなかで「おにいちゃん」「おねえちゃん」としての自分を実感できる場面が大切です。そう考えると保育園は、いながらにして「大きい自分」を実感し、発揮できる素晴らしい舞台にみえてきます。

～ 〈中略〉 ～

そうはいつても、「イヤ」にどう対応するかは、そのときそのときで考えなくてはなりません。「イヤ」に正面から立ち向かって、子どもはおとなの願いを受け入れてはくれないでしょう。子どもは自分のことを「大きい」存在として認めてもらえるかどうか、おとなの心に疑心暗鬼なのです。だから子どもの「イヤ」を受け入れるだけでは、子どもの本当の願いを理解することにはなりません。子どもが自分で納得して、その「イヤ」をふところにしまいこめるだけの時間的な余裕や、子どもにとっての「きっかけ」が必要なのではないのでしょうか。

参考文献 『子どものねがい・子どものなやみ』 白石 正久 著

## 次のりんご教室は…

りんご教室①…7月2日(火) 9:20~11:15

→せいさくを行います

◎持ってくるもの 水筒・シューズ・必要に応じて着替え(100円)

りんご教室②…7月16日(火) 9:20~11:15

→みずあそびを行います

◎持ってくるもの 水着・タオル・水筒・シューズ・水遊び用パンツ(必要な方)

※保護者の方も濡れる可能性があるため、濡れても良い服や靴・タオル等を持って来て下さい

## 『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。(次回からおたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 制作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください  
ていただくとともに、学園への連絡をお願いします